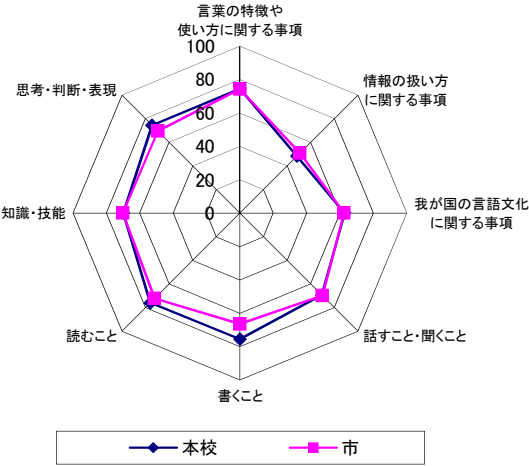


宇都宮市立宮の原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	48.3	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	62.7	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	69.5	69.9	69.7
	書くこと	75.4	66.4	64.6
	読むこと	76.0	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.9	70.1	70.0
	思考・判断・表現	74.5	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市とほぼ同じであった。 ○第6学年配当漢字は、市の平均とほぼ同じ正答率であり、基本的な漢字の読み書きについては定着してきている。 ●同音異字、敬語の問題では、正答率が市の平均を下回った。敬語については、尊敬語と謙譲語の違いにおいて課題が見られる。	・朝の学習やミニテスト、宿題などを活用し、基本的な言語についての学習、既習事項の復習を行い、基礎基本の定着に努めていく。また、個人用パソコンやAIドリルも活用して習熟を図る。 ・漢字の応用的な活用の仕方を学習に取り入れ、文意に沿った漢字や熟語を判断できるようにする。 ・敬語については、敬語を使う相手が誰なのかを明確にする学習を繰り返していき、尊敬語と謙譲語の区別ができるようにしていく。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市と比較して4ポイントほど低い。 ○資料から必要な言葉を探す問題では、適切な言葉を書き出すことができた。 ●情報と情報との関係について理解し、文章をまとめる問題では、情報を整理したり、組み合わせたりして文章をまとめることに課題が見られる。	・資料から必要な情報を抜き取り、活用する活動を様々な教科で取り入れることで、情報の取捨選択しまとめる能力を身に付けられるよう、継続して指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市とほぼ同じであった。 ○漢字の成り立ちについては、定着してきている。	・漢字辞典などを活用し、漢字の成り立ちについて興味・関心を深められるように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市と比較してほぼ同じであった。 ○話を聞いて、内容や考えをまとめるための司会者の工夫を捉えることはできている。 ●互いの立場や意図を明確にしなが、条件に合わせて記述する問題では、不十分な回答が見られた。	・話の要点が何かを捉えられるよう、目的意識をもって話を聞くことの大切さを継続して指導していく。 ・国語だけでなく、学級活動など様々な場面で、互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合う機会を積極的に設け指導していく。
書くこと	平均正答率は、市と比較して9ポイントほど高い。 ○事実を基に、指定された長さで自分の意見を明確にして書くことができています。	・資料から必要な情報を読み取り、その内容を自分の言葉で要約する活動を行う。また、読み取った内容から考えたことを表現する活動を、様々な教科で取り入れていく。 ・作文の学習では、自分の意見に対する根拠や具体的な事例を明確に区別して書くことができるようにし、より説得力のある作文が書けるよう継続して指導していく。
読むこと	平均正答率は、市と比較して3ポイントほど高い。 ○物語文の読み取りについて、どの問題においても市の平均を上回っている。 ●説明文の内容を読み取り、段落に分ける問題では、市の正答率は上回っているが、全体的にやや課題が見られる。	・説明文の読解では、文章全体の構成を考える活動をしつかり行い、筆者の考えの中心がどこかを的確に捉えられるように継続して指導していく。 ・引き続き、読書活動を励行し、読解力を高めるようにしていく。